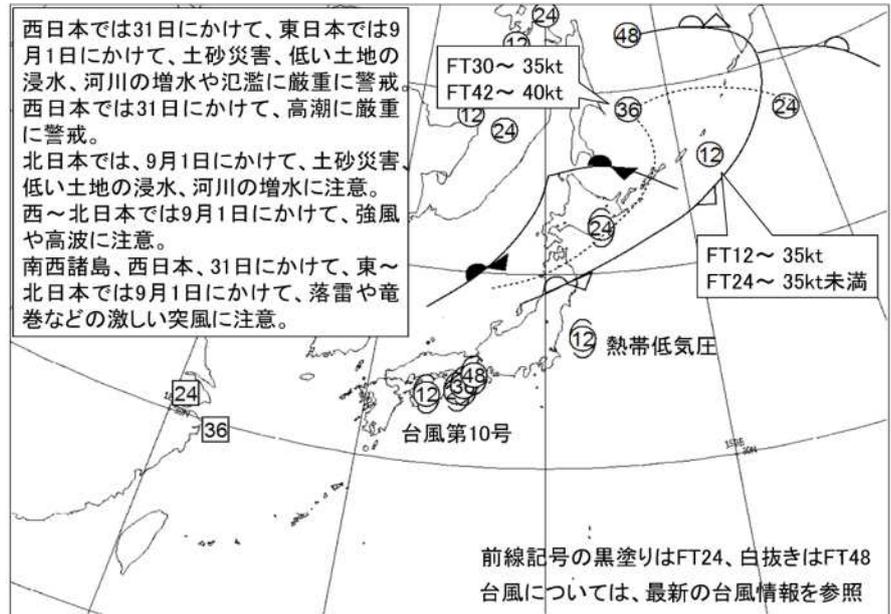


1. 実況上の着目点

① 台風第10号は、西日本を東北東進。西日本や東日本太平洋側では台風本体や台風周辺の下層暖湿気の影響で、雷を検知し非常に激しい雨が降っている所がある。30日14時までの72時間雨量は、西～東日本では500mmを超え、特に、九州南部では800mmを超える値を観測し、記録的な大雨となっている所がある。また、強い風が吹き、うねりを伴いしけとなっている所がある。

② 前線が北日本から千島の東にのびている。前線に向かい下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となっており、北日本では激しい雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の台風は、9月1日にかけて西日本をゆっくり東進。台風本体の雨雲や周辺の下層暖湿気の影響で、雷を伴った非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。台風の動きが遅いため、総雨量が多くなるおそれがある。西日本では31日にかけて、東日本太平洋側では9月1日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に嚴重に警戒。落雷や竜巻などの激しい突風に注意。西日本では31日にかけて、高潮に嚴重に警戒。四国地方では30日夜にかけて、近畿地方と東海地方では31日午前中にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性がある。また、台風周辺では、強い風が吹き、海上はうねりを伴いしけとなる所がある。東～西日本では1日にかけて、強風や高波に注意。南西諸島では31日にかけて、落雷や竜巻などの激しい突風、急な強い雨に注意。

② 500hPa-12°C以下の寒気を伴ったトラフが31～9月1日に北日本を通過。対応する低気圧が31日夜にまでに、前線上のオホーツク海で発生。北日本では、低気圧や前線に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。また、前線や低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き波が高くなる所がある。9月1日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、強風や高波、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。台風の進路や強度については不確実性が大きい。最新の台風情報を参照。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(18時から24時間)：東海・近畿・四国300、関東甲信150、北海道・中国120、東北・伊豆諸島・北陸100mm。②波浪(明日まで)：近畿・四国5、北海道・伊豆諸島・東海・九州北部4、東北・関東・中国・九州南部・奄美3m。③高潮(明日まで)：西～東日本で注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「台風第10号に関する情報(総合情報)」を17時頃に発表予定。